



CDI WEBシンポジウム

※本セミナーは【感染専門医療従事者養成PG認定コース】
2単位取得出来ます。

日時 2019年7月12日（金） 18:30～19:30

会場 徳島大学藤井節郎記念医科学センター
2F 多目的室

講演① 当院における*C. difficile*感染対策

東京慈恵会医科大学附属病院 感染管理認定看護師

美島 路恵 先生

講演② 院内感染として問題となる
クロストリディオイデス・ディフィシル感染症（CDI）

東邦大学医学部微生物・感染症学講座 教授

舘田 一博 先生

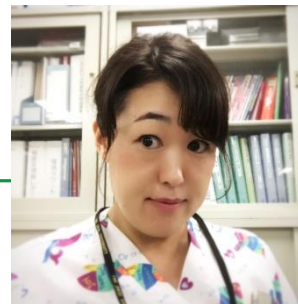
Q&Aセッション

主催：アステラス製薬株式会社



美島 路恵 先生

東京慈恵会医科大学附属病院 感染管理認定看護師



抄 録

当院における*C. difficile*感染対策

*Clostridioides (Clostridium) difficile*は芽胞を形成し各種消毒薬に耐性を示し、環境表面に長期生存することから、院内感染対策上問題である。

*C. difficile*の感染対策は接触予防策の実施であるが、手指衛生は流水手洗いが必要となり、環境に用いる消毒薬は次亜塩素酸ナトリウムを用いるなどの特徴がある。

当院では、様々な対策の実施により、年々*C. difficile*検出率減少の結果が得られている。当院での*C. difficile*の対策について紹介しながら、*C. difficile*の感染対策について再考する機会としたい。

舘田 一博 先生

東邦大学医学部微生物・感染症学講座 教授



抄 録

院内感染として問題となる クロストリディオイデス・ディフィシル感染症（CDI）

近年、CDIが注目されている。特に欧米では病原性の強いクローンが病院・地域から国、さらに大陸を越えて広がっていることが報告¹⁾されている。

本邦は今のところ高病原性株の明らかな増加は認められていないようである。

しかし、東京オリンピック・パラリンピックを契機にどうなっていくのか・・・

本WEBシンポジウムでは、CDIの疫学と特徴、そして効果的な感染対策の実際に関して情報交換が行えればと考えている。

（文献）

1) He M et al. Nat Genet. 45:109-13,2013.